

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学短期交換プログラムURSEPの現状と課題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2008-07-03 キーワード (Ja): 短期交換留学, カリキュラム, ホームステイ, チューター, 単位互換 キーワード (En): short-term student exchange program, curriculum, home stay, tutor, credit transfer 作成者: 原勢, 二郎, Harase, Jirou メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/6571

琉球大学短期交換プログラムURSEPの現状と課題

原 勢 二 郎

要 旨

琉球大学短期交換プログラムは2001年発足し、学生交流協定を結んだ海外の大学の学生約20名を受入れ、単位互換制度の下に1年間英語による授業と、日本語教育を行う。

本プログラムが提供する科目はすべて選択科目であるが、本プログラムの特徴である英語による授業科目は各学期4単位以上履修することを義務づけている。本プログラムに対する二期生の満足度は一期生のそれと比較してかなり向上した。二期生の満足度が向上した項目は一期生へのアンケート結果に基づいて対策を取った項目であった。残された主な課題は英語による授業科目の数を増やし質の向上を図ることである。しかしこれを直ちに実現するのは困難なので、学生が希望する課題について指導教官のもとで勉学・研究することを英語による授業科目とみなして単位を与えることで、単位取得の目的だけで希望しない英語による授業科目を履修することがないようにした。

キーワード：短期交換留学、カリキュラム、ホームステイ、チューター、単位互換

1. はじめに

琉球大学では2000年度の試行をへて、2001年10月から琉球大学短期交換プログラムURSEP (University of the Ryukyus short-time Student Exchange Program) を立ち上げた。このプログラムは琉球大学と協定を結んだ海外の大学から主に3、4年次の学生を招き、1年間本学で作成したプログラムに沿って英語で教育を行うものである。

従って参加学生には英語の能力を要求するが、日本語能力は問わない。本稿では、URSEPの現状と課題について一期生、二期生へのアンケート結果を参考にしながら考える。

2. URSEP program の現状

URSEP では英語による授業科目を15科目（一期生）から20科目（二期生）、日本語学習科目を35科目（一期生）から30科目（二期生）提供した。一期生では各学期日本語学習科目4単位、日本文化1単位（英語で行われている）と英語による授業4単位計9単位を必須とし、各学期10単位以上履修することを義務付けた。二期生からは英語による授業の4単位は必修としたが、他のすべての科目は選択科目とした。またURSEPにはIndependent Study／Researchと呼ぶ科目がある。Independent Studyは、URSEP programにはないが、学生が学習したい科目について、適切な指導教官の指導の下に、学習するものであり、Independent Researchは、学生が希望する研究課題を適切な指導教官の指導の下に研究する科目である。これらの科目は年間4単位まで履修でき、英語による授業科目としてカウントしていたが、二期生の二学期からは例外的に年間4単位を超えて履修できるようにした。これらの授業科目以外に、課外活動としてお茶、習字の体験教室や1、2泊の宿泊旅行、バスツアーなどを提供している。

3. 受け入れ学生の特徴と課題

一期生は21名、二期生は20名を受け入れた。地域別ではアジア（8名、6名）、北米（6名、4名）、ヨーロッパ（6名、6名）、オセアニアなど（1名、4名）であり、男子学生（9名、7名）は女子学生と比べて比率が少ない（括弧内の前が一期生、後ろが二期生を示す）。学生の多くは文系である。ほとんどの学生がAIEJの奨学金を支給されているが、二期生では1名（フランス）私費で参加した。奨学金なしでも参加する学生の数を増やすことや、奨学金の枠があるにもかかわらず、応募者が少ない北米の参加者を増やすことが当面の課題である。

4. URSEP プログラムの満足度について

Fig.1は"Overall I was satisfied with URSEP Program"に対する参加者の選択（1：Strongly agree, 2：Agree, 3：Uncertain, 4：Disagree, 5：Strongly disagree）人数を示す（以下のグラフも同じ）。二期生の満足度は一期生と比較して向上している。これは一期生の経験を踏まえて、必修科目の変更などさまざまな対策を行った効果があらわれたものと思われる。二期生で一人だけ4（Disagree）と答えた学生は、"Most classes are too easy, especially the Japanese classes."

There should be advanced classes, as well as more classes on Japanese and Okinawan culture." と述べている。1 (Strongly agree) を選択した学生のコメントは "I really enjoyed this program. I think it was very well organized and I thought the staffs were very helpful and patient. I am glad that it was only 20 students because we all got to know each other really well and I was grateful to

meet people from all over the world as it made it very interesting. It was also great that field trips were organized for us so we could learn more about the island of Okinawa and its culture. I think the range of subjects offered was interesting and relevant." に代表される。多くの参加者がプログラム全般から得られるものに満足している。

Fig.2 は "I got what I expected through URSEP and life in Okinawa" に対する参加者の選択を示す。二期生では1を選択した学生が最も多い。1を選択したアジアからの学生は "Through URSEP I got a lot of experiences and knowledge. This program broaden my mind about the culture of various countries especially Japan including Okinawa. I am able to improve not only my Japanese

language but also English." と述べている。また2 (Agree) を選択した学生の一人は "I learned a lot about everything through lectures, independent study and research, field trips, and home visit and home stay." と述べている。Fig.1 で4を選択した学生はここでは3 (Uncertain) を選択し、"I got a lot of good experiences through life in Okinawa and I also liked the field trips and the camps provided by URSEP, but I was not satisfied with the classes." とやはり授業に対する不満を述べている。

以上本プログラムは全体として参加者の満足を得ており、今後ともその満足度を維

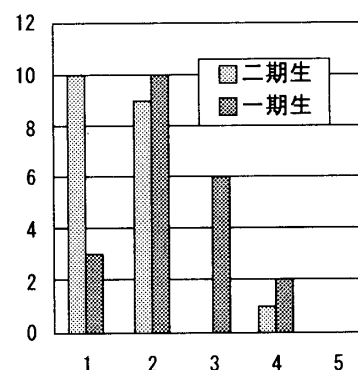


Fig.1 Overall I was satisfied with URSEP Program.

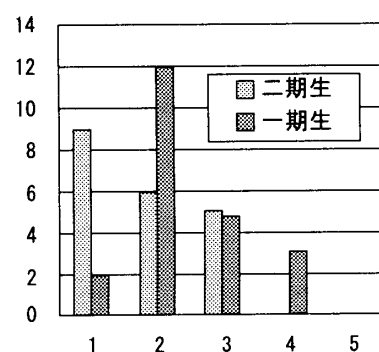


Fig.2 I got what I expected through URSEP and life in Okinawa.

持してゆくことが課題と考えられる。

5. URSEP カリキュラムの満足度について

Fig.3は "Overall, I was satisfied with the Curriculum of the URSEP" に対する参加者の選択を示す。二期生では大多数が1、2を選択しており、カリキュラムの満足度は高い。これは一期生の結果を踏まえて、必修科目を無くしたことが影響したと思われる。

しかし "I would like to see more applicable Japanese courses, such as Intermediate Conversation, and better reading and listening comprehension courses.", "A more variety of business, science and arts subjects will be great for cross crediting with home universities", "I hope there are more Japanese language lessons such as listening comprehension, etc.", など、日本語学習科目や英語による授業科目を増やしてほしいという希望が強い。二期生で5を選択した学生はFig.1、2で不満を述べていた学生で "There were only a few classes offered and generally the level was too low." と述べている。

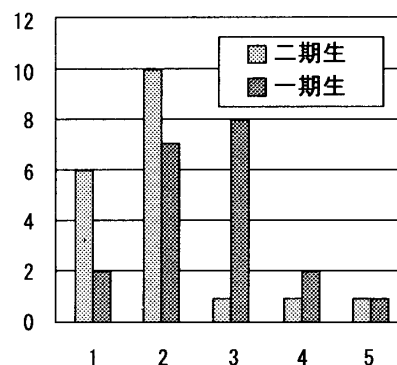


Fig.3 Overall, I was satisfied with the Curriculum of the URSEP.

6. カリキュラムの問題点

Fig.4に "Overall, I was satisfied with lectures on Japanese Language" に対する選択を示す。二期生については1を選択した学生が最も多く、日本語学習科目の満足度は高く、大きな課題はないものと推察されるが、日本語科目を更に増やしてほしいとの要望は根強い。Fig.5に "Overall, I was satisfied with lectures given in English" に対する選択を示す。二期生は満足度が向上しているが日本語のそれと比べると、とくに欧米の学生の満足度が低い。不満の理由は、"It seems strange that we are required to take English classes, since those of us who speak English as a

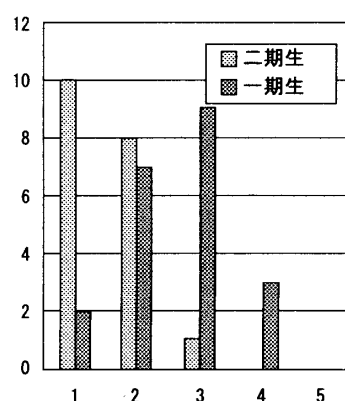


Fig.4 Overall, I was satisfied with lectures on Japanese Language.

first language are so far above the level of those classes geared towards English-learners that our presence there is absurd. The content of these classes seems not to be deep enough for university classes.", "Even so, these courses didn't offer much academic development; I just had to take them for the credit. I don't think any of these courses will transfer for anything at my home university, either." が代表的なものである。

以上日本語と英語による授業の満足度を高める

対策として二期生の二学期からは、これまで年間4単位までしか認めていなかった Independent Study/Research を例外的に4単位を超えて履修可能にし、これらを英語で提供される授業科目としてカウントできるようにした。その結果、二学期では1人で6単位から4単位 Independent Study/Research を取得した学生が数名現れた。

英語による授業の履修を義務付けたのは、英語で授業を提供するという本プログラムの特徴を維持することと、日本人学生対象の英語による授業に留学生を参加させることで、日本人学生と留学生の交流を促進し、授業を活性化させ、日本人学生、留学生、教官それぞれにメリットがあることを狙ったものである。しかし受けたくない科目を単位取得のために強制的に履修させるべきではないのでこのような措置をとったものである。Fig.1、2、3でURSEPで提供する、日本語学習科目や英語による科目双方に不満を表明した学生は二学期では Independent Study/Research を4科目履修し、"He challenged me and made me work hard. Thanks to my supervisor I am now able to read difficult scientific texts." と述べ、Independent Study/Research に対しては、1を選択していた。この学生はもともと日本語能力が極めて高く、この学生に最適な別のプログラムが本学にはあるが、URSEP program と比べて奨学金の枠が少ないので、奨学金が比較的得やすい本プログラムに応募したとの話であり、この学生の不満は本プログラムの趣旨に合わないで参加したことにある。少数であるが一期生、二期生に共通してこのような学生が混じっている。

欧米以外からの留学生からは "I could easily understand the lectures given by

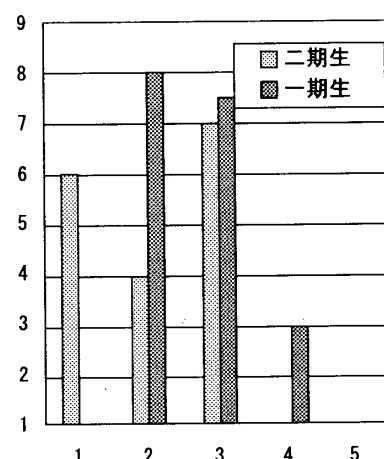


Fig.5 Overall, I was satisfied with lectures given in English.

English.", "It's nice to have a chance to learn English with Japanese friends.", "Yes, all teachers are kind. They try to teach us in English and make us understand.", "Even though English is hard, I was amazed with all my English Speaking lecturers...AAAAAA++++++" と英語による授業を積極的に評価している意見も多い。以上英語による授業の履修義務付けは本プログラムの特徴を守るためにも維持すべきであると考えられる。

Field trip は URSEP Program のなかで、学生の満足度が高い。コメントのいくつかを紹介する。"Yes, from these trips I learned a lot about Okinawa and its people and their daily life.", "I thought the field trips were fun, and they helped everybody to bond, and get to know each other better. Plus I enjoyed learning about Okinawan culture, and seeing various places on the island." "Every single of them was great! I will never forget Tokashikijima. One of the best time of my life." 今後ともこの評価を維持してゆくことが今後の課題である。

7. その他の課題

カリキュラム以外で留学生生活に大きく影響するものとして、ここではインターネット環境、住環境、チューター、ホームステイ、クラブ活動について述べる。Fig.6 に留学生センターのインターネット環境の調査結果を示した。一期生の場合は約半数の学生が不満を表明していたが、二期生では大部分の学生が満足を示している。これは一期生の場合は週3回各二時間だけ開放していたが、二期生の場合は毎日開放したためである。しかしPCが古すぎることや、夜間開放されていないことに対する苦情もある。古いPCを更新し、使用できる時間を長くすることが今後の課題である。

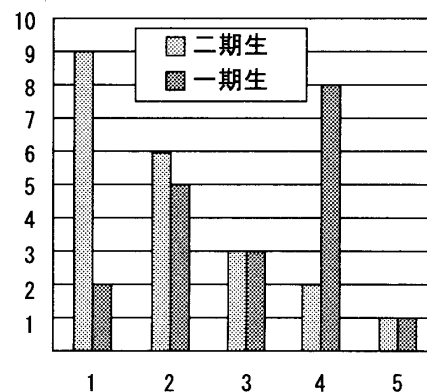


Fig.6 I was satisfied with Internet in the International Student Center.

URSEP 参加留学生は留学生専用の宿舎 (International House) と一般学生寮に居住している。いずれもキャンパス内にあり、民間と比べると家賃が安く、約半数の学生は満足している。International House は比較的評判がよいが、学生寮については著しく不満が大きい。以下にコメントのいくつかを示す。

"If I had been put in the dorms, I would have left immediately or committed suicide. It is too much to stand.", "The worst place I have ever seen in my life. Please, spend just one month at the dormitory to understand the situation (in August for example)"

住環境の改善は直ちにできる問題ではないが、今後の重要な課題である。

Fig.7にチューターに関する満足度を示す。一期生と比べて二期生では満足度が向上した。二期生の場合は留学生が来日した日に対面させ、チューターと留学生合同で1泊2日の Orientation Camp を行いチューターと留学生が連帯感をもつようにしたことが満足度の向上に寄与したと考えられる。コメントを紹介する。"Tutor helped me to study Japanese language and everything related to my life in Okinawa.", "Yes, my tutor was very helpful. She helped me through all my Japanese studies. And she introduced me to lot of Japanese friends. She was always wanted to study a lot. She was very kind and caring." 今後ともチューターの選考とその教育には注意を払ってゆく必要がある。

Fig.8に Home stay/home visit の満足度の調査結果を示す。

一期生では negative な回答が多かったが、二期生では大部分の学生が positive な回答をしている。一期生の場合 Home stay/home visit の制度を知らない学生が多かったことがわかったので、二期生についてはその制度をよく説明し、ホストファミリーと学生を結びつける対面会を催した。満足度が向上したのはそのためと思われる。以下にコメントのいくつかを紹介する。

"I want to thank the teachers for giving us such a good opportunity to be close to Japanese daily life.", "In my opinion, to provide experience of home stay or home visit for the URSEP students is a very good idea. Students

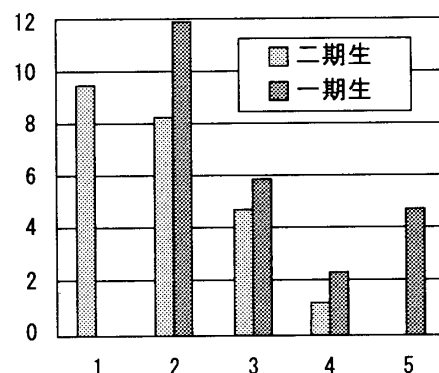


Fig.7 I was satisfied with my tutor.

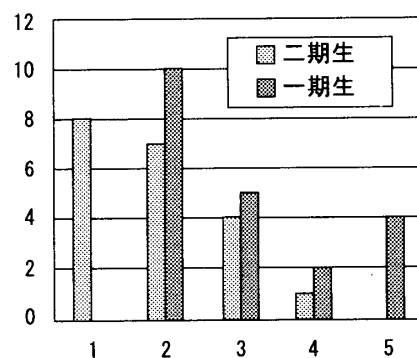


Fig.8 I was satisfied with my home stay/visit.

become to know how Okinawan family life is.", "I thought this was a great idea, and a great opportunity for us to get to know some Okinawan families. My host family and I still contact each other on a weekly basis.", "We all had the opportunity to participate in this program and it was a great way to meet Japanese people and see how an Okinawan family operates."

二期生は満足度が向上したので、今後ともこの満足度を維持するのが課題である。

最後にクラブ活動について述べる。"As we cannot speak fluently Japanese, we were set aside, so it's hard to enjoy these group activities.", "Communication (in English) was very difficult. I belonged one semester to a club and I quit."のように、英語力のない琉大生と、日本語力のない URSEP 留学生でうまくかみ合わないことがあることが窺える。またクラブ活動に対する考え方の違い（価値観、文化）にとまどう留学生も多い。

"The clubs in Japan were fun to try, but they demanded quite a bit of commitment. It was hard to participate in the club activities, without devoting all of our free time to join in the club", "Not really; I couldn't stand it. Student clubs are CRAZY; you have to eat, live, and breathe whatever club you join with, and just not that motivated.", "Sometimes it was difficult for me to deal with the cultural manifestations, especially the hierarchy among sempai and kohai was not easy to understand for me. Even if I tried hard to integrate myself in the system, I was criticized many times by one of the oldest of the senior students."

しかしクラブ活動を通じて友人ができ、日本語も上達したと積極的に評価している学生も多い。たとえば "I've been joining an Okinawan dance club, and I really enjoyed the activity. By joining the club, I had many friends and it helped me a lot in improving my Japanese ability." 以上クラブ活動に対する URSEP 留学生の反応は多様であるが、生きた日本文化を理解する上でも貴重な体験となるので、このような体験ができるよう手助けをすることが必要である。

8. おわりに

一期生のアンケート結果に基づいて対策を打った項目については、二期生のアンケートで、その効果が現れた。そのまま結果を信じてよいものかどうか疑問があるが、正

直言って驚いている。英語による授業科目数を増やすこととその質を向上すべきことが明確になったが、これはにわかに実現できる課題ではない。そこで英語による授業科目としてカウントしている Independent Study/Research を二期生の後半から4単位を超えて履修できる特例を設けて、英語による科目を履修しなくても英語による授業の履修義務（半期4単位以上）を守ることができるようにした。現在の欧米からの参加者の多くは URSEP 参加の主目的が日本語の学習にあるので、英語による授業科目の履修義務を無くすと、仮に英語による授業科目の内容が充実しても、英語による授業を受ける学生が減り、URSEP program の目的が失われる可能性が増す。将来、本プログラムの目的にあった参加者が増え、質の高い、魅力ある科目が増えれば、英語による授業科目の履修義務は無くしたい。この方向に発展させることが今後の大きな課題である。

(琉球大学留学生センター)

Present State and Future Tasks on the University of the Ryukyus Short-Term Student Exchange Program (URSEP)

HARASE, Jirou

Keyword : short-term student exchange program, curriculum, home stay, tutor, credit transfer

Abstract

URSEP, which started from October 2001, aims to educate by utilizing English students from overseas universities that have academic exchange agreements with the University of the Ryukyus. Approximately 20 students participate in this program in each academic year. It has been found out that the feeling of satisfaction of the second period participants has improved considerably compared with that of the first period participants. This improvement might be attributed to the measures taken to improve problems found out through the survey conducted on the first period participants. The main remaining problems are lacking of courses given in English that attract students mainly coming from Europe and US and course qualities assessed by them. The immediate abolition of this obligation should not be considered now as it might destroy the main objective of this program. Instead Independent Study/Research subjects, which are to carry on study or research on the specific subject of student's interest under supervision of an appropriate professor, should be used as substitutes of the courses given in English.

(University of the Ryukyus)